

団体名		社会福祉法人 武蔵野市民社会福祉協議会						
事業	① 指標名	SNSの活用による広報活動の実施			目標値	Facebook 150件 Twitter 150件	実績値	Facebook 149件 Twitter 182件
	過去の実績	平成29年度	平成30年度	令和元年度	達成率	Facebook99.3% Twitter121.3%	達成状況	達成
	(単位: 件)	(Facebook) 161	(Facebook) 142	(Facebook) 157				
	取組内容	※R2年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。 ・現状の広報手段の見直しや新たな取組を推進していくため、従来の「市民社協だよりふれあい」やホームページによる広報担当という形を超えた、市民社協全体のプロモーションを担う業務担当を配置し、取組を進めた。 ・本会のTwitterアカウントは、マスコットキャラクター「あいあい」のアカウント名とし、マスコットキャラクターによる情報発信の形での投稿を行った。 ・継続的な投稿を行うため、12月15日より、各企業のTwitter公式アカウントが繋がるための「#企業公式が毎朝地元の天気を言い合う」のハッシュタグをつけ、武蔵野市の天気を発信した。						
	一次評価	※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。 ・新型コロナウイルス感染症により、事業案内や実施報告などの記事を投稿することが難しくなりましたが、12月から「#企業公式が毎朝地元の天気を言い合う」のハッシュタグでのTwitter投稿をするなど、継続的に投稿し、SNSを活性化させるよう取り組んだ。 ・プロモーション担当職員だけでなく、他の職員の担当業務においても、SNS投稿を積極的に行うよう働きかけを行い、多くの職員が記事を作成し、投稿を行った。						
二次評価	コロナ禍においても工夫をしてFacebookやTwitterを用いた情報発信に努め、Facebookはほぼ目標どおり、Twitterは目標を大きく上回る情報発信を行ったことを評価する。市民社協の認知度を高め、会員数の増加につなげるためにも、引き続きSNSを用いた効果的な情報発信の取組を進めていただきたい。							
財務	② 指標名	会費収入			目標値	3,500,000円	実績値	3,233,000円
	過去の実績	平成29年度	平成30年度	令和元年度	達成率	92.4%	達成状況	未達成
	(単位: 千円)	3,423	3,357	3,235				
	取組内容	※R2年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。 ・新型コロナウイルス感染症により、会員対象に行っていた「七夕のつどい」が中止となってしまったため、会員特典としてオリジナルエコバッグと協力店による優待サービス券を配布した。 ・コミュニティセンターでの会費納入ができなかったため、武蔵野プレイスや、かたらいの道市民スペースにて、8月と3月に臨時会費納入窓口を設けた。 ・発展強化計画策定に伴い実施した職員ワーキングを継続し、会員拡大や会費の払いやすさなどについて引き続き検討し、ゆうちょ銀行の口座開設やクレジットカード決済による会費納入の仕組みを検討した。						
	一次評価	※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。 ・目標値には達しなかったが、会費納入額はほぼ前年度と同額となり、ここ数年の減少額よりも少額に抑えることができた。 ・七夕のつどいに代わる会員特典を検討し、ポリ袋が有料化となることからオリジナルエコバッグを作成し、会員からは好評であった。						
二次評価	新型コロナウイルス感染症により、「七夕のつどい」が中止となった中でも、オリジナルエコバッグ等を配布する会員特典の導入や、臨時会費納入窓口を設置するなど、様々な工夫により会費収入の確保に努めたことを評価する。新型コロナウイルスの影響はまだ続くことが想定されるため、引き続きコロナ禍に対応した会費納入の仕組みについて検討していただきたい。							
内部	③ 指標名	働き方改革の実現に向けた取組み			目標値	超過勤務時間の10%削減 (勤務を要しない日を除く)	実績値	22%削減 (平均約19.5時間/月)
	過去の実績	平成29年度	平成30年度	令和元年度	達成率	220.0%	達成状況	達成
	(単位: 時間/月)	24	28	25				
	取組内容	※R2年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。 ・個々の職員の効率的な業務実施とワークライフバランスの実現に向け、超過勤務の削減を意識して業務にあたるよう働きかけを行った。 ・超過勤務時間の「見える化」のため、超過勤務命令簿に累計時間欄を設け、月の途中でも当該月の超過勤務時間を把握しやすくした。 ・毎週水曜日をノー残業デイとし、その日は超過勤務とならないよう、業務のスケジューリングを意識するよう働きかけを行った。水曜日に超過勤務を実施する場合は、ノー残業デイをその週の他の曜日に振り替えることとした。						
	一次評価	※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。 ・新型コロナウイルスの影響により、全体的な業務量の縮小、夜間の会議等の減少などの要因が大きかったと思われるが、ここ数年の超過勤務平均時間に比べ、月平均で5時間以上削減することができた。						
二次評価	新型コロナウイルスの影響による超過勤務時間の減少はあったものの、ノー残業デイの設置により、業務のスケジューリングを意識する働きかけや、超過勤務時間の「見える化」により、超過勤務の削減への意識を高めるなどの取組を行ったことを評価する。引き続き、新型コロナウイルスの影響にかかわらず、効率的な業務実施とワークライフバランスの実現に向けた取組を進めていただきたい。							